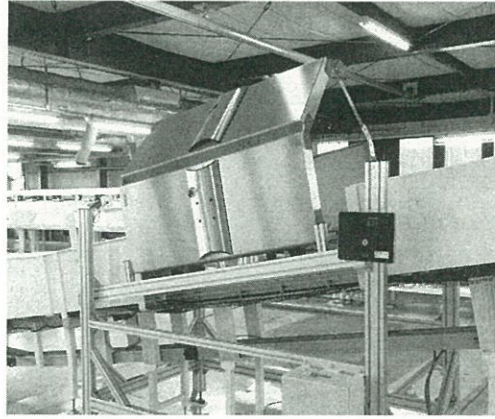


RFIDタグ 自動認識

ワーク投入作業効率化

樁本チエイン、受注本格化

樁本チエインは物流倉庫や工場などの仕分けラインに設置する無線識別(RFID)タグの読み取り装置「TRAYREADER(トレーリーダー)」を開発した。トレーに商品や部品といった対象物(ワーク)を載せて搬送し、仕分けするラインに取り入れる。ワーク投入作業の効率を、バーコード読み取り方式と比べて2倍以上にできる。インターネット通信販売の増加や人手不足を背景に、倉庫や工場の物流を効率化する需要の高まりを取り込む。



RFIDタグの読み取り装置「TRAYREADER」

倉庫や工場に持ち込まれる商品や部品に、あらかじめRFIDタグの採用が必要となる。仕分けラインのワーク投入口を減らし、設備投資を抑えられる。このほか、作業者を2分の1に省人化する。樁本チエインは、今後、RFIDタグ対応商品が増えることを見て、受注を本格化する。

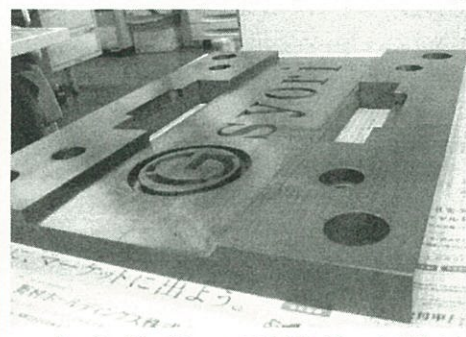
同社製の樹脂トレー式仕分け機「リニソト」用の装置。屋根のような形状で、ラインを覆うように設置し、装置外部からのノイズ干渉を減らす。内側に四つのアンテナを設置し、RFIDタグを読み取る。

file いい話

岡谷熱処理工業(長野県岡谷市、西沢邦治社長、0266・23・4610)が手がけるプレス金型向け真空熱処理「Gsyorill写真」が評判だ。独自開発した炉6台を用いて、A3鋼イブ程度までのダイス鋼に対する熱処理後の歪みを0.03%以内抑える。

6台の炉使い歪み抑える

プレス金型向け真空熱処理 岡谷熱処理工業



複雑な段差や穴開けが施された金型ほど熱処理後の歪みを抑えるのが難しいのは業界共通の悩み。同社では、Gsyorill開始から約5年かけ、一品一様の熱処理に対応することでノウハウを蓄積。受注は長野県内中心だが、評判を聞きつけ顧客は全国に広がっている。西沢社長は「遠方ほど難しい注文が来るが、現場からの評判は上々」と確かな手応え。

(諏訪)

サイバーセキュリティ対策事業

23年度売上高30億円

東陽テクニカ

東陽テクニカは企業向けサイバーセキュリティ対策事業の売上高を、2023年度に17年度比9倍の30億円に引き上げる。セキュリティ対策先進国のイスラエル企業と提携していることを強みに、同国の商品を日本向けにカスタマイズして販売する。

工場同士がネットワークでつながるIoT(モノのインターネット)化の動きにより、外部のサイバー攻撃が急増している。セキュリティ対策需要が増えることを見込んで、プラントや食品企業、中小企業などへ売り込む。

東陽テクニカは新規事業としてサイバーセキュリティ対策事業を育てるため、16年11月に社内カンパニーの「セキュリティ&ラボカンパニー」を設立。イスラエル企業との提携に加え、セキュリティ情報を一元的に提供する独自統合型プラットフォーム「サイバー対策のユ

ーザーはメガバンクと官庁が中心だったが、危険性が知られるにつれ、今後は一般企業の注文が増える」と(桜井俊郎セキュリティ&ラボカンパニー社長)とみる。

第一弾商品で脅威インテリジェンスサービス「AIログ分析サービス」を発売した。脅威インテリジェンスサービスはAIでセキュリティ情報を自動検出し、中小でも導入できる価格設定にした。価格は78万円から(同)。

多様な加工に対応

タンガロイ、ボーリング工具

タンガロイ(福島県いわき市、木下聡社長、0246・36・8501)はカウンタボーリング工具「TCB2」に、工具径26mmから59mmのボディ7万3440円(消費税込)、インサートは「SPMP8311」が1296円(同)が拡充したボディは、(JIS)品以外のボーリング加工には、エ

豊富な工具径を取りそろえて多様なボーリング加工に対応する。価格はボディが代表的な「TCB260-290F32」で7万3440円(消費税込)、インサートは「SPMP8311」が1296円(同)が拡充したボディは、(JIS)品以外のボーリング加工には、エ

切削液を一括処理

MC向け濾過システム

現場が喜ぶ商品

▽:「展示会で自分がPRするのが一番効果的」と話すのは、FK(福井市)社長の山本智司さん。金属加工

座標軸



JMU、大型フリー引き渡し

ジャパンマリンユナイテッド(JMU、東京都港区、千葉光太郎社長、03・6722・6100)は、フェリーさんふらわあ(大分市)・鉄道建設・運輸施設整備支援機構向けに、横浜事業所磯子工場(横浜市磯子区)

同船は大府府・大阪南港・鹿児島県・志布志港航路を就航する既存船の後継船。旅客709人、大型トラック121台、乗用車134台を同時に運べる。全長192.0m、型幅27.0m、総トン数1万3659t。